

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1275600128		
法人名	有限会社 グループホーム 光		
事業所名	グループホーム 光		
所在地	千葉県山武郡横芝光町篠2339-15		
自己評価作成日	平成22年12月17日	評価結果市町村受理日	平成23年2月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会
所在地	東京都港区台場1-5-6-1307
訪問調査日	平成23年1月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設時は、民家の改造で利用者の受け入れを行っていたが、当地に新設する際に、太陽光発電を取り入れたエコ住宅を目指した。閑静な農家住宅の散在する地区の利点を生かし、地産地消のコンセプトで地元の野菜、魚を食卓に上げるよう心がけている。ケアについては、大規模な施設には器具整備は及ばないが、「介護者の手によるバリアフリー」で利用者の手となり足となる介護を行っている。また、家庭菜園の活動に力を入れて、菜園の規模を超えて、畑仕事を利用者とともに楽しんでいる。種を蒔いて収穫する喜びは、植物より生命の力をいただいている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

田園風景の中でのんびりと過ごせるような雰囲気 で建物 が作られています。
 ① 建物中央と外部に所有する畑で利用者と職員で季節毎の野菜作りをしています。建物中央中庭の畑は食堂、廊下等からいつも利用者が眺めることが出来て、日向ぼっこをしながら野菜づくりを眺めています。出来た野菜は利用者の食卓に並べられており、見て食べての楽しみがあります。
 ② 芝犬と猫を飼っており、利用者の愛玩になっています。利用者が動物と戯れることで利用者の徘徊がなくなったなど癒しのアニマルセラピー的効果を上げています。
 ③ 時代を先取りした太陽光発電を当初から行っており、光熱費の一部を負担して効率のよい建物になっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の特性を生かしたかかわりを目指しながら、そのひとらしく生活できるよう支援する	事業所の理念は「光と風、空と大地のおりなす調和と地域・社会と共に、安心と満足の「和が家」を創造します」としています。利用者の希望を出来るだけかなえてあげるケアを実践し、利用者が不安になった時に理念について話し合ったりしています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地元の町会や町行事への参加、利用者と一緒に近所の方の畑での収穫作業などを地域の方々の理解の元で交流が行なわれている。	町内会に加入しており、地区のお祭りなどに参加しています。年2回農協婦人部ボランティア主催の行事に利用者が参加して地域の高齢者と交流しています。地域の複数福祉施設と職員の交流を行いお互いの良い面を取り入れるようにしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近くにお住まいの高齢者の方への施設の行事の参加の誘いかけなど取り組みを行っている。又、相談業務があれば受け入れる体制である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での話し合いや、意見交換を通して事業所にフィードバックし、サービス向上に反映させている。	運営推進会議は民生委員、町議会議員、役場職員、地域包括支援センター員、家族代表など6～8名で2カ月に1回行われ、業務報告の他に外部評価の結果報告や高齢者や児童について話合われる地区街づくり懇談会に参加した報告などを議題に挙げています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町担当者に夏祭りなどの行事への参加や、訪問時に普段の生活を見ていただき、開放的なグループホームを目指し、協力関係を築いている。	地区の福祉施設として設立当初から行政との結び付きは強く、町役場職員が運営推進会議に出席しており、また、福祉課へ相談やPRに行っています。日頃の連絡は電話やメールで行っています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修参加の機会により、全員で身体拘束しないケアにつとめている。夜間を除き玄関の施錠は行っていない。	普段は玄関や廊下のサッシはカギをかけていません。建物中央にある畑に廊下から利用者が自由に出入りしています。玄関からの利用者の外出には職員が付き添っています。新しく入った利用者が慣れない間は安全のため玄関に鍵をかける場合もあります。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修参加等により、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、事業所内での虐待が見過ごされないようにしている。。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後増えるであろう後見人制度を理解し、権利擁護をどのように進めるかを事業所で考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明をし、理解納得を得られるよう行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	気づいた点は、遠慮なく管理者等に意見していただいている。又、言いにくい事柄については、町に相談し、町から管理者に内容照会があり適切な運営に心がけている。	利用者に町内者が多い為、家族は平均月1～2回面会に来ており、その折に家族の意見や要望を聞いています。中国出身者もおおり、当局の担当者との意見交換も行っています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見、提案は、事業所運営に反映するようにしている。	毎月1回職員会議を行っており、パートも含めた全職員が参加しています。その中で研修会の参加希望を取り、費用は事業所負担で積極的に参加させています。個別面談を不定期に年1回行い、職員の悩みや要望を聞いています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各種研修への参加を促している。また、上位資格の取得に向けて各自が努力できるような職場環境を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修が募集されるたびに、各職員に出張での参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームと相互訪問、人事交流により職員はもとより、利用者も交流を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	病院や以前のサービス提供事業所との連携をとり、家族の希望を伺い適切な対応に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者と家族を含めた協力関係を築くべく努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何が必要かを見極めてサービス提供をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気の中で、一緒に暮らしている一員として捉えるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連携を密に、どのような状態かを的確に知らせ、家族とともに支えるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	人の交流はなかなか困難ではあるが、本人が慣れ親しんだ行事への参加機会を与えることにより、接点を作るようにしている。	利用者の内5～6名が地元出身者の為、地域に出かける機会も多く外出の機会があれば積極的に出かけます。敬老会には全員出席です。職員と家族で支え、本人優先で人との交わりや場の継続支援をしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	少人数なので、良好な関係が築かれている。また、支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	手紙や葉書などでの交流は続けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向をしっかり探って、適切な対応が出来るよう努めている。	利用者と会話出来る場合は、言葉によるコミュニケーションをとります。困難な場合は誰が見ても利用者にとってベストの状態にして支援しています。利用者の不穏時には、ケア会議、職員会議を開いて対応しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人個人の記録をしっかりとり、経過を把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の暮らしの中で、小さな変化も見逃さないよう個人ノート、引継ぎに注意している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	なかなか家族を含めての話し合いはもてないが面会に来た時などを有効に生かし、適切な介護計画を作成している。	職員全員で利用者の意向を反映して介護計画を作り、家族の面会時に伝えて同意を得ています。介護計画は月1回の医師往診の後、サービス担当者と看護師、職員とのケア会議で話し合っていて決めています。月1回モニタリングしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の利用者の方について、気づいたことをその都度記入し各種情報の共有に努め、計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所でデイサービスの受け入れが可能となるよう受け入れ態勢を整備していく。H22年度実施の予定。また、併せて学童保育を検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの図書館での無料映画会、音楽会など体調をみながら参加している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回、主治医の往診がある	月1回担当内科医が全員を往診し、検査の必要者は年2回ほど受診しています。脳外科や精神科などへは通院支援をしています。また、年2回ほど歯科往診を依頼しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康管理、医療行為に関しては看護師にお願いしている、また相談などは、24時間体制で協力いただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	連携している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族、医者との話し合いをし、事業所で出来ることを説明している。	食事摂取が可能で医療的処置が必要ない場合に限り、看取りを利用者の希望に添って行っています。今まで4人の方を支援しています。訪問看護師による月4回の支援があり、24時間対応してもらえるようになっています。家族の意向と医師の判断で話し合いをして決めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応について訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルを作成し、常日頃から身につけるようにしている。地域の一員と加入しているが協力体制は取れていない状況です。	年2回消防訓練、利用者誘導訓練、消火器取り扱い訓練を行っています。地域の防災訓練にも参加しています。年1回夜間集合訓練として火災を想定して突然全職員に集合をかけて時間を図る訓練をしています。非常備蓄はしていません。	近隣住民とのさらなる協力体制の構築と非常時に備えた防災グッズや非常食の備蓄を検討することが望まれます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	そのような扱いをしないよう努めている	基本的に「さん」付けで呼ぶ事にはしていますが、中には「ちゃん」と呼ばれている人もいます。利用者の嫌がる事をしない、というコンセプトで支援し声かけを忘れないようにしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	支援している	月極の献立表はなく、職員の裁量で作られた前のメニューを参考にしながら、その場で利用者の希望を聞き食材を買ってきて作っています。利用者による菜園場所があり、庭でも季節の野菜を育てて食材として使っています。外出先で持参したお弁当を楽しむこともあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	支援している	もじもじしたり体動や目で尿意を訴える人はトイレでの排泄を支援しています。訴えがない場合は時間を見計らって誘導しています。全員自然排便があり便秘薬の使用者はゼロです。オムツ使用が3名、リハビリパンツ使用が4名です。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	支援している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には火曜日、金曜日に決めているが、火曜日に入れない人は月曜日にはいるとか融通がきくようにしている	ユニットバスの個浴で火金の週2回午前から午後にかけて入浴しています。入浴が出来ない場合は、日をずらしていますが、人や季節によって入浴の希望が変わる事もあります。各種入浴剤やゆず湯など季節感を出したり足湯なども支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	人によって昼寝の時間もとっている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ノートに薬の目的や副作用を書きとめ、個人個人を支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各自が食事の後など他の人の分まで、下膳してくれたり、自分の役割を見つけている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や、体調にあわせて家族の協力も含めて、柔軟に支援している	天気の良い日は、車椅子に乗る人も午前中の散歩を30分ほど楽しんでいます。月2回は、利用者の買い物希望や食料等の買い出しの時に職員とスーパーに出かける人もいます。美容院や家族との外出、コンサート、金比羅祭りなど市民イベントにも出かけて、月1回は全員での外出を支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理できない人は施設で、出来る人は自分で管理するよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書くのは困難だが、電話での交流は積極的に支援する。また、スカイプなどのIT機器を利用し顔の見える対話を進めていく。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の行事を取り入れ季節感が出るように共有空間づくりを工夫している。	リビング兼食堂や広い廊下は大きなガラス張り窓やサッシで大変に明るく敷地の中庭の畑や近隣の風景がよく見えます。利用者は日中は殆ど自室におらず、リビングや廊下で日向ぼっこや園芸リハビリとして畑で野菜作りをしたり、それを他の利用者が見るなどし、作って見て食べて楽しんでます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日光浴は毎日の日課で利用者同士が快適に過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と本人により居心地の良い空間をつくっている。	居室は畳室が2室あり、全室クローゼットが備え付けられています。利用者の持ち込みは自由に使い慣れた利用者の家具等を持ち込んでいます。居室の清掃は、自分で出来る場合は利用者に任せています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来ることは自立して行うように見守っている。		